

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201819		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 コスモス		
所在地	長崎県佐世保市南風崎町119-4		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年11月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人が自分らしく普通に生活出来る様に支援している。職員自身も環境の一部であることを常に念頭に置いている。また、人生の大先輩であるという敬いの心をもってその人に合った支援に取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人の医院や老人保健施設と隣接している。日当たりの良いリビングでは利用者が新聞を読んだり、読書をするなど理念に沿い利用者の生活リズムを大切に、自分らしく暮らす支援が行われている。管理者が交代し、私の出来る事、出来ない事などの焦点情報や私のくらし方シートを活用した情報などから、利用者へのより深い理解と介護計画を中心に据えた支援に向けた取組みが進められている。利用者の命を預かることに責任を持ち、火災避難時の自主訓練を2ヶ月毎に行い、母体法人医院から毎日、往診があるなど、防災意識と医療連携の強さは家族の信頼と安心に繋がっている。又、運営推進委員の多彩な住民の参加、避難訓練への住民協力、災害時の避難場所に事業所を提供するなど地域との協力体制がある。職員の笑顔と利用者の穏やかな暮らしがある事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を掲げ地域の中でいつまでも自分らしくあり続けるを目標に、個別ケアに努めている	開設時からの理念と介護目標は、法人内老人介護施設と共通であり、事業所内の目につく場所や職員の休憩室に掲示し職員へ周知を図っている。又、パンフレットに明記し広く表明している。利用者一人ひとりの自分らしさを根幹に据えた支援で、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園との交流を行っている。地域の奉仕活動に参加したり地域の理・美容院や商店を利用している。	地域の空き缶拾いの参加や文化祭に利用者の作品を出展し、一緒に見学している。中学生の体験学習の受入れや保育園児の年4回の訪問があるなど地域との交流は活発である。又、地域の商店からの食材の購入や理美容院の利用など地域との関係作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内勉強会に地域の方や利用者様のご家族の参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行う。地域の情報や家族の思いを得てサービスに活かせるように努めている。	年6回、系列の4つのグループホーム合同で保育園や教師を含む規程のメンバーが参加し開催している。毎回、活発な意見交換や交流を議事録から窺える。ヒヤリハット報告の提案や運営推進委員の法人内部研修の参加、災害時の地域の避難受入れなど意見を取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことを尋ねたり推進会議の時に包括センターの職員と情報交換や助言をいただいている。	行政支所の窓口に出向いたり、電話を掛けて利用者に関する申請の手続きや運営上の分からない事などを日頃から担当者と話す機会が多く、相談事も気軽にできる関係を構築している。又、行政からの情報を貰ったり、市主催の研修会へ参加するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の勉強会を開催し全員で取組熟知している。	職員は、身体拘束防止推進委員の研修を受講し、又、身体拘束の内・外部研修に参加している。内容を職員ミーティングで報告し周知徹底している。スピーチロックは言葉を変えるなど工夫し、職員同士で注意し合っている。日中の玄関の施錠はなく、拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外で虐待防止について学ぶ機会を持っており理解を深め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の研修への参加の機会が少なく活用に至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭で説明し、理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、管理者や職員が現状報告を行い、会話を心掛けている。また、玄関に意見箱を設置している。遠方の方には電話で窺っている	玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口や苦情処理は明文化し契約時に家族へ説明している。家族の要望は面会時や電話で会話する際に聞き取ることが多い。毎月、利用者の状況を便りでも知らせたり、面会時には声を掛け家族が話しやすい雰囲気心掛け、家族の意見要望の抽出に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りノートや月1回のミーティング時、食事会時に設けている。定期的に勉強会を設け、他ユニットの職員との、意見交換を行い反映に繋げてもいる。	職員は、月1回のミーティング時や休憩時間などに意見要望を伝えている。又、法人管理部にいつでも相談をする事が出来る仕組みがある。管理者や法人は勤務希望や研修費の援助など働き易い職場作りに努めており、全てのエアコンを取り換えるなど意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、希望休等本人の希望にかなった勤務体制で働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自身のスキルアップの為に積極的に参加するように声掛けしている。勉強会を実施したり、研修の報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や東部ブロックの勉強会に参加し、他施設の職員と交流し意見の交換もして、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中で意向・要望・心配事を傾聴し、安心して生活して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聴く機会を設け、それらの解消に努め、安心して頂ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関とも連携し、今必要な支援は何かを見極め、対応するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から食事や作業を一緒に行き「共に」生きる喜びを感じる様にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて密に連絡を取り近況を伝え要望をお尋ねし、良い関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の存在が本人の精神的ケアに必要不可欠なため、会いに来やすい雰囲気づくりを心掛けている。	家族や友人などの訪問や月1回の神父の訪問がある。家族の協力で帰宅し、宿泊したり外食する利用者もいる。近くの理容店が利用者を送迎して散髪したり、馴染みの美容院が整髪に来ている。又、遠方の家族へ年賀状を出す支援などこれまでの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体でのレクリエーションや趣味を生かした小グループでの作業等お互いが協力出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も郵便物や問い合わせ等があれば、電話連絡し相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴することを心掛けながら、一人一人の思いや希望、意向の把握に努め、職員全員で把握し対応するように努めている。	職員は、利用者の生活歴や生活リズムを把握している。日々、利用者と1対1で話す機会は多く、表現が困難な利用者は、家族から若い頃から好きだったことなど情報を得ている。又、難聴の利用者とは筆談やジェスチャーで思いや意向を聞き取っている。新たな情報はアセスメントへ追加し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他事業所から情報を受けたり、家族や本人との会話の中で、個人の生活歴や安心できる生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや業務日誌で職員全員が現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ご家族の意見を聴きながらスタッフの情報交換や医師との連携の下、本人の望む暮らしになるように作成している。	利用開始時の介護計画は3週間で見直し、その後も変化があればその都度見直している。職員は毎月のカンファレンスとモニタリングで現状を確認し共有している。家族の意見は面会時や電話で聞き取り、又、私の出来る事出来ない事など利用者の焦点情報や私の暮らし方シートを活用し、利用者に沿った計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、ケアメモや申し送りノートに日々の気づきや様子を記入して、職員間で情報を共有し、ミーティングやモニタリング時に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの日々の変化に合わせ、その都度支援内容を見直し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会や公民館等にて地域資源の把握に努め、地域の催し物などに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人または家族の希望をお尋ねし主治医との連絡を取り適切な医療を受けられるように努めている。	かかりつけ医は家族の意向で決めている。毎日、母体法人の医院の往診があり、夜間の対応もある。家族や職員が受診支援した際の情報は相互に連絡を取り合い、変更は申し送りノートなどに記載し、職員間で共有している。又、職員全員が救命救急の研修を受講しており、急変時の対応も周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常介護の中での気づきを伝え、相談・指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医・担当看護師・ご家族と密に連絡を取り、入院生活に不安の無い様に、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における看取りの指針を説明し承認を得ている。	今年度は1例の看取りがあった。事業所は看取りについての指針を明文化し、利用開始時に家族へ説明し署名を貰っている。利用者の状況に応じて、その都度、家族・医師と話し合いを持ち、家族の意向に沿って支援している。内部研修や看取り後の振り返りを行っており、職員のメンタルフォローの体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の受講を職員全員がしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防立会いの避難訓練を行う。新人職員の指導や全職員が災害時の対応が出来る様に意識向上に努めている。地域の方の協力もお願いしている。	年2回、法人内のグループホームと合同で消防署立ち合いの避難訓練を行っている。更に、夜間想定を含めた自主訓練を2ヶ月毎に実施し、新人職員に指導するなど周知を図っている。又、運営推進委員や地域住民の参加協力があり、備蓄や非常持ち出し品も整備している。ただし、自然災害時の避難訓練はこれからである。	事業所はハザードマップの土砂災害危険地域にあり、自然災害時の避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時は特に心配りをしている。	排泄誘導や失敗時など直接的な言葉掛けはせず、さり気なく対応している。又、入浴時は恥辱心やプライバシーに配慮した支援を心掛けている。個人情報取り扱いは利用開始時に家族へ説明し、署名を貰い、又、職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出している。ただし、個人記録の保管が訪問者の目に触れる場所にある。	プライバシーを守るために利用者や家族などの目に触れない工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や行動の中から思いや希望をくみ取ったり、選択肢を設けて決めることが出来るように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先にならないように、個々のペースで生活が出来る様に柔軟に対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室・美容室の予約や、入浴時の髭剃り等身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー書き・おしぼり巻・おぼん拭き・お茶やだしのパック詰めなどその人に合ったできることを手伝っていただき、一緒に行っている。	献立は利用者の希望を取り入れ、職員が立て利用者の食べやすい形状で調理している。又、利用者は調理方法を教えたり、味見や野菜の下ごしらえなど出来ることを手伝っている。ソーメン流しや敬老会の仕出し弁当など季節感を取り入れたり、ドライブ外食や行事食、誕生日のケーキなど楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニュー作りや摂取量のチェックを行い、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人のできることを活かし、声掛け・見守り・介助とその人の状態に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、無理の無いトイレ誘導・声掛け、おむつ交換を行っている	職員は排泄チェック表を付け、利用者の排泄リズムを把握し共有している。又、排泄の自立支援の意義を理解し、布パンツへの移行など排泄の自立に向け、利用者の状況を検討している。夜間のポータブルトイレの使用はなく、各居室のトイレでそれぞれのリズムに合わせ、誘導支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションでの適度な運動や毎日の食材選び水分摂取など便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を把握し、無理の無い様に入浴支援を行っている。入浴支援予定日は職員の人数を増やし希望に添えるように努めている。	基本は週2回の入浴を支援しており、利用者の状況や希望に応じ、入浴日以外にも対応している。車椅子の利用者はシャワー浴を行っている。又、好みのシャンプーや石鹸の持ち込みも可能である。脱衣室の開閉など恥辱心に配慮した支援を心掛け、差し入れのバラでバラ湯や柚子湯、菖蒲湯など楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室とフロア[ソファ]を利用しくつろがれている。空調管理や照明に気配りしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、理解するように努めている。また、初役の処方時、変更時にはその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて役割分担している。役割を果たすことで充実感・満足感に繋がっている。また、お好きな物を愛飲されている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力や地域の床屋さんの協力もある。外食支援・ドライブ・花見等計画し実行している。精神状態や天気を見ながら近所の散歩も心がけている。	季節の花見ドライブや外食ドライブなど車椅子の利用者も一緒に出掛けている。個別に郵便局へ一緒に行ったり散歩したり、以前居た施設に遊びに行くなど希望に応じて支援している。又、家族の協力で家族ドライブなど外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は本人やご家族の意向で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ここに合わせて支援している。携帯電話で電話されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して寛いだり、快適な食事が出来る様に配慮している。季節やイベントに応じて飾りつけている。	窓からは山や田園が見渡せ、窓辺には利用者が寛げるように畳の間やソファを配している。リビングは広く、採光も良く、テーブルは車椅子の利用者もスムーズに移動できるように配置している。利用者の作品は季節感があり、過度な飾りもなく、職員が毎日、午前と夜に分けて掃除し、清潔で落ち着いた空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル椅子が随所にあり、思い思いの場所で過ごせる畳の間があり、希望者はそこで過ごす事が出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用の仏壇やタンスを持って来られている。家族の写真を飾ったり、ご自分の作品を貼ったりしている。	トイレ、クローゼット、ベッドが備え付けである。持ち込みの制限はなく、テレビや衣装ケース、家族の写真やぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込み、又、趣味の作品を飾っている。使い慣れたベッドを使用している利用者もいる。掃除は毎朝、職員が行い、乾燥対策に濡れタオルを掛けるなど居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子で自走できるスペースでテーブルを配置している。杖使用者には杖多恵を設置している。		